

論壇

グーグルを利用できない

私が東大の大学院で研究者への道を歩み始めたころ、日本の経済学は世界の先端とは大きく乖離していた。日本の多くの大学ではマルクス経済学という日本独自とも言える学派が多数派であった。こうした内外の大きなギャップを私が強く実感することになるのは、米国に留学してからだ。日本で苦労して集めた情報で習得したことが、米国の大学院の授業の中ではいとも簡単に説明されてしまう。英語では優れた教科書が多く出ており、それを読めば短時間で世界の先端的な知識が手に入る。研究

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

者を目指す者として、留学して本当によかったと思った。

この状況はいまではずいぶんと変わった。私が学生のころには都内に数カ所しかない洋書店で苦労して手に入れた専門書も、いまやアマゾンを使えば簡単に手に入る。グーグルの検索サービスの中心にグーグルスカラーがあるが、こ

先日、中国の情報統制に関しての米国の専門家による論評を読んだ。その中で興味深い指摘があった。「グーグルスカラーを利用できない中国の研究者は困っている」という指摘だ。たしかに困る

だろう。科学の研究は大変なスピードで世界中で進展している。そうした学問の進展の情報をい

中国の情報遮断

れを利用すればどのような分野でどのような研究が誰によって行われているのか瞬時に検索できる。本当に便利な時代になった。もちろん、それでも違った環境で学ぶ経験は大事なので、留学が貴重な経験であることは変わらないが。

中国ではグーグルを利用できない。早くキャッチしていくことは研究者にとつては生命線である。そのため世界中のセミナーや学会に参加するわけだが、日常的にはグーグルスカラーのような専門情報サイトに依存することが多いのだ。

中国ではグーグルを利用できない。中国の専門家は、こうした情報の動きについていけるのだろうか。疑問を投げかけている。

科学や技術への影響注視

グーグルやフェイスブックを使えなくても、中国にはアリババやテンセントがあると言つ人もいるだろう。たしかに中国にもすぐれたIT企業は多くある。しかし、ITの価値はそれが世界にオープンに繋がっているところにある。中国だけでしか通用しないITネットワークは、いかに中国の人口が多くても、限界があるように思える。

それに加えて、米中経済摩擦の中で、ファーウェイのような先端企業へのサプライチェーンが米国によって分断されようとしている。中国は米国によるサプライチェーンの分断を批判するが、それ以前からグーグルやフェイスブックのネットワークから中国を分断しようとしたのも中国自身である。科学や技術の進展にこうした情報ネットワークの分断がどの程度の影響を及ぼすのか注目しておく必要がある。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。